

第七十六回帝國議會
衆議院

東亞海運株式會社法案外一件委員會會議錄(速記)第六回

會議

昭和十六年二月二十日(木曜日)午前十時二十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 平川松太郎君

理事小林房之助君 理事東條貞君

理事永山 忠則君

安藤 孝三君

上田 孝吉君

森下 國雄君

中川 重春君

牧野 良三君

出席國務大臣左ノ如シ

逕信大臣

出席政府委員左ノ如シ

海軍次官 豐田貞次郎君

海軍少將 保科善四郎君

海軍大佐 高木 惣吉君

文部省實業學務局長 關口 勳君

逕信次官 山田 龍雄君

貯金局長 伊勢谷次郎君

海運監理官 松永 忠男君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

郵便貯金法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

船船保護法案(政府提出、貴族院送付)

○平川委員長 是ヨリ開會致シマス、先ヅ

船船保護法案ヲ議題ニ供シマシテ、提案ノ

御説明ガアリマス

○豐田政府委員 只今上程セラレマシタル

船船保護法案提案ノ理由ニ付キマシテハ、

ハ各種ノ情勢ニ對應致シマシテ、之ニ基キ

曩ニ本會議ニ於テ海軍大臣ヨリ大體ノコトヲ申述ベテ居ラレルノデアリマスガ、本委員會ガ開カレルニ當リマシテ、重複スル點モアリマスガ、私ヨリ少シク詳細ニ御説明ヲ申上ゲタイト思ヒマス、近代ノ戰爭ハ著シク國家總力戰ノ形態ヲ採ツテ參ツタノデアリマスガ、帝國ノ現狀ハ舊ニ戰爭遂行ノ上ノミナラズ、又國民生活維持ノ上ニ於テモ、海上通商ニ依存ヲ要スルコト極メテ大ナルモノガアルノデアリマス、隨テ是ガ確保ハ洵ニ重大ナ意義ヲ有スルコトナツテ參ツタノデアリマス、此ノ狀況ハ世界列國トモ概ネ同様デアリマシテ、一度開戰トモナリマスナラバ、戰爭目的達成ノ爲メ、全面的ニ對手國海上通商破壊ヲ企圖スベキコトハ、必然ト考ヘナケレバナラナイノデアリマス、前世界大戰並ニ今時ノ歐洲戰爭ニ鑑ミマスルモ、今後益々大規模ニ又複雑ニ、通商破壊戰ノ行ハルベキコトヲ明示致シテ居ルノデアリマス、帝國ガ戰時又ハ之ニ準ズベキ事變、或ハ外國間ノ交戰等ニ依リマシテ、通商航海ニ脅威ヲ感ジマスコトハ、我が國家死活ノ問題デアリ、海軍トシテハ之ニ對シ力ヲ以テ之ヲ確保致サネバナラナイノデアリマス、而シテ通商保護ヲ實施致シマス手段ト致シマシテハ、歐洲諸國ノ實情ヲ見マシテモ明ナル通り、或ハ海軍兵力ヲ以チマシテ直接船船ヲ護衛致シマスとか、或ハ海軍兵力ヲ以テ所要海面ヲ制壓致シマシテ、間接ニ是ガ護衛ニ當リマスとか、或ハ各種ノ情勢ニ對應致シマシテ、之ニ基キ

船船ニ對シ必要ナル指示命令ヲ與ヘルトカ等ノ方法ニ依ルノデアリマスガ、帝國海軍ガ兵力ヲ以テマシテ概ネ制海權ヲ掌握致シマスルマデニハ、大體ニ於テ第一線部隊ノ兵力ハ、之ヲ十分ニ保有シテ置ク必要ガアリマスノデ、船船ノ保護即チ通商保護ニ對シテハ、已ムヲ得ズ最小ノ兵力ヲ以テ最大ノ成果ヲ收メナケレバナラスコトナルノデアリマス、而シテ此ノ場合保護ヲ受クベキ船船ガ、海軍ノ意圖ニ合致スベキ狀態ヲ保チ、且ツ行動スルコトヲ絕對的要件トスルノデアリマスコトハ申スマデモアリマセヌノデ、此ノ絕對的要件ヲ充足スル爲ニ本法律案ヲ提出スル次第デアリマス

本法律案ノ内容ノ要旨ヲ申シマスレバ、次ノ三點ニ歸着致シマス、其ノ一點ハ戰時事變又ハ外國間ノ交戰等ノ場合ニ於キマシテ、船船保護ノ必要アリマスル場合、海軍官憲ハ船船保護上必要ナル指示ヲ爲シ得ルコト、其ノ第二點ハ、運航業者又ハ船舶所有者ニ對シテ、船舶ノ設備又ハ乗組員ノ整備ニ關シ、海軍大臣ハ關係各大臣ト協議ノ上、船船保護上必要ナル指示ヲ爲シ得ルコトデアリマス、其ノ第三點ハ、船舶保護上必要アリマスル時ハ、所要事項ニ關シ報告ヲ徵シ、又ハ船舶其ノ他必要ナル箇所ニ立入リマシテ、之ヲ検査セシメ得ルコトデアリマス、是等ノ三點ガ本法律案ノ内容ノ要旨デアリマシテ、之ニ所要ノ罰則並ニ本法適用ノ範圍等ヲ規定致シテ居ル次第デアリマス

以上ノ如ク本法律案ガ制定セラレマスコトトナリマスレバ、今後ノ事態ニ對シマシテ通商航海保護ノ目的ヲ達成スルニ遺憾ナキヲ期シ得ルモノト信ジテ居ルノデアリマス、以上ヲ以チマシテ本法律案ノ説明ヲ終リマスガ、尙ホ内容ノ詳細ニ付キマシテハ引續キ他ノ政府委員ヲシテ説明致サセタイト存ジマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラントコトヲ切ニ御願ヒ致ス次第デアリマ

○保科政府委員 船船保護法案ノ内容ニ付キマシテ、條ヲ逐ヒ其ノ主要ナル點ヲ御説明申上ゲマス

第一條ニハ本法ノ目的ヲ掲ゲテアリマス即チ本法ハ戰時、事變其ノ他ノ場合ニ付キマシテ、我が國ノ通商航海ニ脅威ヲ受ケ又ハ受ケル虞ノアリマス時、敵襲、機械水雷其ノ他ノ軍事の危害ニ對シマシテ、一般船舶ヲ保護スルコトヲ以テ目的ト致シテ居ルノデアリマス、第二條ハ船舶ノ保護ヲ實施スベキ時機ト、實施事項ニ關スル規定デアリマス、實施ノ時機ヲ戰時、事變、其ノ他ノ場合ニ於テ船舶保護上必要アル時ト致シマシタ、戰時、事變ハ無論ノコトデアリマスガ、外國間ノ交戰等ノ場合ニ於テモ、當該交戰國ノ交戰權ノ不法ナル行使等ニ依リマシテ、船舶ノ保護ヲ必要トスルガ如キ事態ヲ惹起スルコトモ、豫想セラレルノデアリマス、實施事項ト致シマシテ海軍官憲ハ命令ノ定ムル所ニ依リ海運業者、船舶所有者又ハ船長等ニ對シ航海、碇泊、通信、裝

付託議案(審査終了ノモノヲ除ク)
郵便貯金法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)(第六五號)
船船保護法案(政府提出、貴族院送付)(第八六號)

備、乗組員、乗客、積荷其ノ他ニ關シマシテ、臨機必要ナル指示ヲ爲シ得ルコト致シマシタ、航海、碇泊ハ商船隊ノ編制區分、船地、出入港日時、航路又ハ航行海面、速力、行動等ヲ含シ居ルノデアリマス、通信ハ無線電信電話、信號其ノ他一切ノ通信ヲ適當ニ管制致シマシテ、保護ノ目的ヲ達成スル爲メデアリマス、裝備ト申シマスノハ、保護上必要ナル比較的簡易ナ設備デアリマシテ、概ネ船舶自體ニ於テ實施シ得ル程度ノモノデアリマス、乗組員ト申シマスノハ、自衛上必要ナル船員ヲ増員セシメルトカ、機密保持上適當デナイ者、或ハ重要航路ニ就航ハル船舶ノ乗組員トシテ不適當ナル者等ニ對シマシテ、是ガ交代ヲナサシメル等デアリマス、乗客、積荷ニ付キマシテハ、是等ノ中ニ機密保持上或ハ戰時禁制品等、船舶保護上問題トナルベキモノガアリマス、是ガ乗船又ハ搭載ノ禁止、制限ヲナス等ノコトデアリマス、其ノ他ト申シマスノハ、保護目的達成上必要ナル事項、例ヘバ燈火ノ管制、乗組員ノ諸訓練等ヲ意味スルノデアリマス、要スルニ船舶保護ノ實施ニ當リマシテ、臨機是等ノ諸事項ヲ適當ニ指示スルコトニ依リマシテ、保護目的ノ達成ヲ容易ナラシメントスルモノデアリマス、尙ホ本法ニ所謂海軍官憲トハ、命令ニ規定セラレル等デアリマスガ、只今ノ所海軍大臣、鎮守府司令長官、艦隊司令長官、要港部司令官、獨立艦隊司令官、地方在勤海軍武官及ビ外國在勤海軍武官等ヲ豫想シテ居リマス、第三條ハ、戰時、事變、其ノ他ノ場合ニ於ケル船舶保護ノ爲メ、平時行フベキ必要ナル準備ニ關スル規定デアリマシテ、海軍大臣ハ必要ノアリマス時、命令ノ定ム

ル所ニ依リ、運航業者又ハ船舶所有者ニ對シマシテ、船舶ノ設備又ハ乗組員ノ整備ニ關シ、必要ナル指示ヲナシ得ルコト、並ニ海軍大臣ガ右ノ命令ヲ發シ又ハ指示ヲ致シマス時ニハ、豫メ關係各大臣ト協議スベキコトト致シマシタ、尤モ外地ニ於キマシテハ、朝鮮總督府、臺灣總督府及ビ樺太廳長官ニ協議スルコトトナリマス、保護上必要ナル船舶ノ設備ト申シマスノハ、編隊航行設備、見張設備、通信設備、自衛設備等デアリマスガ、是等ノ中ニハ船舶自體ニ於テ實施不可能、或ハ實施シ得ルトシテモ頗ル困難ナルモノガアルノデアリマス、隨テ平時ヨリ豫メ運航業者又ハ船舶所有者ニ對シ、是等設備ヲ實施セシメ置ク必要ガ生ジテ參ルノデアリマス、又既ニ是等設備ノアル船舶ニ付キマシテ、業者ガ之ヲ改裝スルノ必要ヲ生ジマシタ場合ニハ、當該設備ノ機能ニ惡影響ナキヤウ適當ニ指示スル必要ガアルノデアリマス、船舶所有者ニ對シマシテ、註文ヲ含メマシタノハ、是等ノ設備中ニハ船舶製造ノ際施行セシメマスコトニ依リ、業者ノ負擔ヲ輕カラシメ得ルモノガアルカラデアリマス、乗組員ニ對シマシテモ、平素ヨリ隨時商船隊運動並ニ通信法、自衛法其ノ他船舶保護上必要ナル教育指導ヲ行フト共ニ、所要員ニ對スル準備ヲ講ゼシメテ置キマセス限リ、所要ノ時機ニ於テ通商上優秀ナル適當ノ船員ヲ得ルコト不可能ナルノデアリマス、以上ハ平時行フベキ準備デアリマスガ、船舶保護ノ爲メ必要ナル軍事的準備デアリマスノデ、之ヲ海軍大臣ノ所掌ト致シマシタ、併シナガラ船舶ニハ遞信省其ノ他各省トソレノ關係ノアルモノガアリマスノデ、海軍大臣ガ本條ニ付キ省令ヲ定メ

マスニ當リ、又必要ナル指示ヲ致シマスニ當リ、豫メ之ヲ關係各大臣ニ協議シ、以テ密接ナル連繫ヲ保ツコトト致シマシタ次第デアリマス、第四條ハ、前二條ノ實施ニ當リマシテ、船舶其ノ他ノ狀態調査、又ハ検査ニ關スル規定デアリマス、即チ海軍官憲ハ命令ノ定ムル所ニ依リ、第二條ノ指示ニ係ル事項ニ關シ、必要ノアリマス時ハ、運航業者、船舶所有者若シクハ船長ニ對シ報告ヲナサシメ、又ハ船舶其ノ他必要ナル場所ニ立入り、検査ヲナサシメ得ルコトト致シマシタ、船舶保護ヲ實施致シマス以上、又保護上必要ナル設備ニ關シ指示ヲ致シマス以上、船舶其ノ他ノ狀態又ハ設備ニ誤リハナキヤ否ヤ、或ハ乗組員ノ軍事的能力ニ關シマシテ、一應報告又ハ臨檢ニ依リ、其ノ内容ヲ調査又ハ検査ヲ行フトハ當然ノコトデアリマス、第五條乃至第十一條ニ於キマシテ、本法ノ罰則ヲ規定致シマシタ、本條ハ第二條ノ規定ニ依リ、海軍官憲ノナス船舶保護上必要ナル臨檢ノ指示、又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ、平時ヨリ海軍大臣ガ船舶保護ノ目的達成上ナス指示ニ違反シタ者ニ對スル罰則ヲ規定致シテ居リマス、本條ノ違反行爲ノ主體タルベキ者ハ、第二條ノ關係ニ於テハ運航業者、船舶所有者又ハ船長、第三條第一項ノ關係ニ於テハ、運航業者又ハ船舶所有者タルコト勿論デアリマス、本條ノ刑ハ、本條違反行爲ガ船舶保護ト云フ緊要ナル國家ノ任務遂行ヲ害シ、

運航業者等ノ負フ國防義務ニ違反スルモノナル點ニ鑑ミ、二年以下ノ懲役又ハ二千萬圓以下ノ罰金ニ處スルコトニ規定致シマシタ、第六條ハ、第二條ノ規定ニ依リ海軍官憲ノ指示ヲ受ケタ船長ガ、其ノ指示ニ依ル事項ヲ實施セントスル際、乗組員等ニシテ之ヲ妨ゲルガ如キコトアラバ、船長ニ對スル指示ハ實效ヲ期シ得ラレマセヌノデ、船長ノ右指示ニ依ル職務ヲ遂行ヲ確保スルノ要ガアルノデアリマス、是レ本條第一項ノ規定ヲ設ケテ、斯カル行爲ヲ處罰セントスル所ニデアリマス、第二項ハ、第四條ノ規定ニ依ル報告ヲナサズ、若シクハ虛偽ノ報告ヲナシ、又ハ當該海軍官憲ノ行フ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ若シクハ忌避スル行爲ニ對スル罰則ヲ規定シマシタ、蓋シ適正ナル報告又ハ官憲ノ完全ナル實情検査ガナレバ、充分ナル船舶保護ヲナシ得ナイカラデアリマス、第七條、第八條、第九條ノ規定ハ、轉嫁罰則ニ關スル規定デアリマシテ、運航業者又ハ船舶所有者ハ、支配人其ノ他ノ代理人又ハ船長其ノ他ノ從業者ガ、其ノ業務ニ關シ第五條又ハ第六條第二項前段ノ違反行爲ヲナシタル時ハ、自己ガ指揮シタ場合デナクトモ、其ノ罪責ヲ負フベキデアルコトヲ示シ、第八條ハ、犯罪主體ガ法人ナル時ハ、理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ガ未成年者又ハ禁治產ナル時ハ、其ノ法定代理人ガ、ソレノ處罰ヲ受ケルト云フ趣旨デアリマス、而シテ右ノ場合ニハ性質上懲役刑ヲ科スルコトヲ得ナイノデアリマス、第十條ハ、本法施行地内ニ運航業者又ハ船舶所有者タル法人ノ本店、若シクハ主たる事務所ガ存シ、又ハ法人以外ノ個人ノ住所ガ存スル場合、法人又ハ人ニ對シ第二

條若シクハ第三條ノ指示ヲナシ、又ハ第四條ノ報告ヲ求メタル時、本法施行地外ニアル支店等ニ於テ違反行為ノ行ハレ得ルコトハ、船舶關係業務ノ特質上容易ニ想像セラレマス、之ニ對シテモ第五條及第六條第二項前段ノ罰則ヲ適用セントスルノデアリマス、第十一條ハ、運航業者又ハ船舶所有者ニ關スル罰則ハ、國又ハ道府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ニハ之ヲ適用セザル旨ヲ規定シタモノデアリマス、第十二條ハ、本法適用ノ範圍ニ關スル規定デゴザイマシテ、陸海軍ニ屬スル船舶ニハ之ヲ適用セザルコトト致シテアリマス、本法ハ海軍ニ屬スル船舶ヲ對象ト致シテ居ナイノハ勿論デアリマスガ、同時ニ又陸軍ニ屬スル船舶ニ對シテハ、別個ノ護衛法ヲ講ジマスノデ、是等ハ本法ノ適用範圍外ニ置クコトヲ適當トスルモノデアリマス、尙ホ陸海軍ニ屬スル船舶ト申シマスノハ、元來陸海軍ニ於テ所有シテ居ル船舶ハ勿論ノコト、現ニ陸海軍ニ於テ徵發備入中等ノ船舶モ含有シテ居ルノデアリマス、以上ヲ以テマシテ遂條ノ御説明ヲ終リマス

○平川委員長 是ヨリ質疑ニ入リマス——
米窪君

○米窪委員 本法ハ目下非常ニ緊迫ヲ告ゲテ居ル國際關係、及日本ガ海ヲ以テ立ツテ居ル國柄デアルト云フ點カラ言ヒマシテ、極メテ重要ナル法案デアリマス、併シ法案ノ趣旨ハ極メテ簡單デアリマス、既ニ海軍省ハ御懇篤ニモ昨日懇談ナ御説明ガアリマシテ、此ノ法案ニ付テ大體吾々ハ諒解シテ居リマスルガ、尙ホ重要ナル法案デアアルダケ、他ノ省トノ牽聯關係ニ付キマシテ、是非御尋ネ致シタイ二三ノコトガアリマス、伺フ所ニ依リマスルト、御出席ノ海軍省ノ

政府委員ノ方々ハ、時間ノ御都合ガアツテ、十一時頃是非他ヘオイデニナルト云フコトデアリマスカラ、私ハ極メテ簡單ニ且ツ重要ナ「ポイント」ダケヲ、先ヅ海軍ノ政府委員ノ方々ニ御尋ネ致シマシテ、サウシテ此ノ法案ト關係ノアル省、即チ船舶教育ニ關スル點ニ付テハ文部省、及ビ第三條ノ船舶ノ整備ニ關スル點ニ付テハ、逕信省ノ關係政府委員ノ方々ニ、御尋ネ致シタイと思ヒマス、冒頭ニ私ハ此ノ法案ニ對シテハ滿腔ノ贊意ヲ表スル者デアリマス、寧ロ此ノ法案ノ提出ガ遅キニ過ギルト考ヘテ居ル位ニ、私ハ今日ノ時局柄必要デアルト考ヘテ居ルノデアリマシテ、其ノ意味合ニ於テ、更ニ此ノ法案ノ重要性ヲ究明シタイ意味ニ於テ、御質問申上ゲタイコトヲ御諒承願ヒタイ、私ハ昨日此ノ法案ヲ戴イタバカリデアリマシテ、詳シク之ヲ研究シテ居リマセスガ、此ノ法案ノ要點ハ第二條、第三條、第四條ニアルト考ヘテ居リマス、此ノ第二條ハ主トシテ船舶所有者、或ハソレニ代ルベキモノニ對シテ、「コンヴォイ・システム」ヲ構成スルニ付テ必要ナル施設ヲ命ズルト云フ條項ノヤウニ承ツテ居リマス、第三條ハ此ノ「コンヴォイ・システム」ヲ運用スルニ付テ必要デアアル所ノ人的關係ニ付テ、主トシテ御規定ニナツテ居ルト考ヘテ居リマス、昨日カラ段々ト海軍御當局ノ説明ヲ伺ヒマスト、第二條デ船舶所有者或ハ之ニ代ルベキモノニ御指示ニナル設備ニ付テハ、サウ大シテ大キナ負擔ヲ蒙ラセナイト云フコトデアリマスカラ、此ノ點ハ今日ノ日本ノ海運事業者ニ對シテ、大シタ心配ハナク、或ハ影響ハナイと思ヒマスガ、私が主トシテ此ノ法案ニ付テ深甚ナル考慮ヲ持ツテ居ル點ハ、

第三條デアリマス、以下サウ云ツタ觀點カラ二三ノ質問ヲ申上ゲタイと思ヒマス、先ツ第一ニ私ハ數年來議會ノ各會期毎ニ、海軍御當局ニ對シテ、或ル時ハ大臣ニ對シテ——一例ヲ申シマス米内大將ガ海軍大臣時代ニ、米内サンニ對シテ、斯ウ云フ場合ガ起ルト云フコトヲ、私ハ既ニ其ノ當時カラ豫想シマシテ、サウシテ商船隊ト海軍トハ極メテ密接ナル關係ヲ持ツテ居ルノデアルカラ、船舶ハ全部之ヲ海軍ノ豫備員ニスル必要ガアル、サウデナカウタナラバ、精神的ニモ或ハ組織的ニモ極メテ密接ナル關係ヲ、商船乘組員ニ持タセルコトハ到底十分ニ行カナイ、今日或ル一部ノ所謂高等商船學校ト云フヤウナ教育機關ヲ出テ來タ者ハ、海軍豫備員令ト云フモノニ依リマシテ、海軍ノ豫備員ニナツテ居リマス、併シ同ジク高級船舶デアツテモ、海軍ノ豫備員ニナツテ居ナイ者ガアリマス、又普通船舶ハ原則トシテ海軍ノ豫備員ニナツテ居リマセス、私ハ此ノ一部ノ高級船舶ト全部ノ普通船舶ヲ、此ノ際兵役法ヲ改正シテ、三箇月或ハ六箇月程度ノ豫備教育ヲ施スコトニ依ツテ、或ハ砲術學校、或ハ機關學校、或ハ普通船舶員ニ對シテハ、海兵團等ニ收容シテ、若干期間ノ豫備教育ヲ施スコトニ依ツテ、海軍ノ豫備員ニシテ置ケバ、此ノ「コンヴォイ」ヲ作ル時ニ於テ非常ニ役立ツデハナイカ、施設ハ急ニ出來マセウガ、此ノ「コンヴォイ」ヲ構成シテ、之ヲ海軍御當局ノ意ノ儘ニ動かサウトスル操縱者ノ豫備教育ト云フモノガ非常ニ困難デアツテ、簡單ニサウ遽カニ明日動カスカラ今日ト云フ譯ニ行カナイノデアリマシテ、此ノ點ハ平素カラ船舶ヲ海軍ノ豫備員ニシテ置クト云フコトガ、極メテ必要

デアアル、斯ウ云フコトガ起ルト思ヒマスカラ、私ハ此ノ點ヲ五六年前カラ力説シテ居ルノデアリマスガ、調査スルトカ、研究スルトカ云フ御答ヘデアツテ、未ダニ陸軍省或ハ其ノ他ノ關係省トノ間ニ、御協議ナサレタ形跡ガナイ、是ハ今日陸軍ノ御當局モ御出席デゴザイマスガ、陸軍大臣ニ御傳ヘ願ヒ、海軍省ノ側カラハ海軍大臣ニ御傳ヘ願ツテ、至急兩省ノ間ニ於テ兵役法ヲ改正シテ、何年以上海上生活ノ經驗アル船舶員ハ、陸軍ヨリ海軍ニ籍ヲ移シテ、サウシテ先程申上ゲタ若干ノ豫備教育ヲ施スコトニ依ツテ、海軍ノ豫備員ニスル、趣旨ハ極メテ簡單ニ申上ゲタノデアリマスガ、サウ云フ手續ヲ御執リニナツテ、海軍ノ豫備員ニサレル御意思ハナイカ、之ヲ先ヅ御伺ヒ致シマス

○豊田政府委員 只今ノ御質問ハ洵ニ適切デアリ、又殊ニ海軍ニ對シマシテ、御激勵ト同時ニ、非常ニ御同情ノアル御言葉デアリマシテ、私達厚ク御禮ヲ申上ゲマス、御説ノ通り海軍ト商船界トハ、最モ密接ナル關係ガアルノデアリマスガ、又今日マデ出來ルダケノ關係ヲ付ケテ居ツタノデアリマシテ、之ヲ「イギリス」等ニ比ベルト、マダ其ノ關係ハ實ハ少イノデアリマス、「イギリス」ハ永年海上ニ發展シテ居ル歴史ヲ持ツテ居ル關係モアリマセウガ、商船ノ船長、或ハ海軍ノ士官、斯ウ云フ者ガ甚ダ密接ナル關係ヲ持チ、又屢々會合シテ意思ノ交換ヲシテ居ルノデアリマス、之ヲ只今ノ我が國ノ狀況ニ比ベマスト、其ノ間大イニ差ガアルコトガ認メラレマス、ドウカシテ其ノ程度マデ是非持ツテ行キタイト云フ風ナ考ヘテ吾ハ持ツテ居リマス、左様ナ意味デ、實ハ

今回ノ提案モ大變遲レマシタガ、提案致シテ速カニ之ヲ法律化シテ載キマシテ、海軍ト商船界トノ關係ヲ一層密ニシテ、不測ノ場合ニ於キマシテ、十分ニ商船保護ノ目的ヲ達成致シタイト云フ積リデゴザイマス、次ニ只今御話ノ豫備員ニスルコトニ付キマシテハ、是モ前カラ其ノコトヲ伺ツテ居リマスシ、又吾々ト致シマシテハ、十分ニ其ノ方面ノ研究ヲ致シマシテ、只今御示シノ通り、一日モ速カニ之ヲ完成スルヤウニ、今後努力致シタイト考ヘテ居リマス

○米窪委員 是非サウ云フコトニ至急御運ビヲ御願ヒシタイト思ヒマス、第二ノ點ハ第一ノ質問ノ點ニ多少關係ヲ持ツノデアリマスガ、今日日本ノ商船ノ乗組員ハ、單ニ兵役ノ義務ヲ負ハサレテ居ル内地ノ日本帝國臣民ノミナラズ、臺灣及朝鮮ニ籍ヲ持ツテ居ル者ガ相當居ルノデアリマス、更ニ日本國民ニアラザル者ヲ使ツテ居ル所ノ船主ガアリマス、關東州或ハ滿洲、甚ダシイノハ中華民國ノ國籍ヲ持ツテ居ルノガ、日本ノ商船ニ乗ツテ居リマス、偶、サウ云フ者ガ「コンヴォイ・システム」ノ船ニ乗ツテ居ル時ニ於テハ、軍機ノ保持上、或ハ船舶ノ操縦上ニ於テ、内地ノ所謂臣道實踐、大政翼贊ノ精神ニ徹底シテ居ル者ト、ソレカラ外地或ハ日本國民ニアラザル者ガ乗ツテ居ル船トノ間ニハ、精神的ニモ、或ハ訓練上ニ於テモ、相當「ギャップ」ガアル、是ハ當然免レ得ナイコトト思ヒマスガ、船ヲ動かスト云フ觀點カラ云ヘバ、今日船員ノ拂底シテ居ル際デアリマスカラ、是ハ已ムヲ得ナイデセウガ、此ノ法律ガ出タ時ニ此ノ「コンヴォイ・システム」ヲ構成スル船舶ニ、サウ云フ者ガ相當多數乗ツテ居ル場合

ニ於テハ、是ハドウナサル御積リデアルカ、ソレデモ差支ヘナイノデアルカ、私算聞ニシテ間違ツテ居ルカモ知レマセヌガ、英國ノ海軍諸法規ニ於テハ、四分ノ三マデハ英語ヲ話ス船員デナケレバナライト云フ規定ガアルト云フコトデアリマスガ、日本ニハサウ云フ人種ニ關スル規定ガナイノデアリマスガ、所謂東亞ノ新秩序ヲ建設シ、大東亞共榮圈ノ理想ニ向フ爲ニハ、或ル一面ニ於テハサウ云フ人達モ之ヲ包容シテ、サウシテ其ノ大理想實現ノ爲ニ向ツテ行クコトモ必要ガアルデセウガ、苟クモ本法ノヤウナ相當軍機ノ機密ヲ保持シナケレバナラヌヤウナ法律ヲ實施スル場合ニ於テハ、私ノ意見トシテハヤハリ此ノ我が國ノ聲國ノ精神ニ徹底シタ者ガ、乗組員デアルコトガ望マシイノデアリマスガ、此ノ點ニ付テ海軍御當局ノ御意見ヲ伺ヒタイト思ヒマス、私ハ實ハ其ノ點ヲ明カニシタイ爲ニ、昨日資料ノ御提出ヲ願ツタノデアリマスガ、未ダニ御提出ガナイノデ、其ノ割合ガ分リマセヌ、此ノ點ハ御取調ニナツテ居ルト思ヒマスカラ、ドウゾ此ノ點ヲ一ツ御考慮ニ入レラレマシテ、御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス

○保科政府委員 今ノ船員ノ實情ニ付キマシテハ、遞信省ノ方カラ後御説明ガアルト思ヒマス、乗組員ニ對シマシテ、此ノ第二條ニ規定シテアルノデアリマス、先程御説明申上ガマシタ通りデアリマス、「コンヴォイ・システム」ヲ施行スル上ニ於テ工合ノ惡イ者ハ、海軍關係ガ之ニ適當ナル指示ヲ發シテ、交代トカ或ハ下船ヲサセルトカ云フヤウナコトニ取計フ積リデアリマス

○米窪委員 只今ノ兵備局長ノ御答辯能

ク分リマシタ、時間ガナイモノデスカラ私甚ダドウモ走り質問デ、意ヲ十分ニ盡スコトガ出來マセヌガ、已ムヲ得マセヌ、第三ノ質問ノ點ハ船員ノ教育ニ關スル問題デアリマス、是ハ私文部當局ノ御出席ヲ請求致シテ居リマスカラ、文部當局或ハ遞信御當局ニ於テ御取扱ヒニナツテ居ル部面ニ付テハ、文部省並ニ遞信省ノ係ノ方ニ御尋ネ致シマスガ、今日ノ日本ノ船員ニ對スル教育ガ、極メテ各省ニ互ツテ區々デアリマス、或ハ文部省ガヤリ、或ハ遞信省ガヤリ、甚ダ統一ヲ缺イテ居ルノデアリマス、是ハ甚ダ遺憾デアリマスガ、是ハ本法ニモ關係ガアリマスケレドモ、私ハ此ノ際其ノ點ニ付テハ時間ノ關係上言ヒマセヌガ、海軍御當局トシテハ、今日商船學校或ハ遞信省ノ扱ツテ居ラレル養成所等ニ於テ、教育サレテ居ル所ノ教育ノ内容ガ、果シテ「コンヴォイ・システム」ト云フモノヲ構成シテ行クダケノ準備ガ平時ニ於テ十分ニ與ヘラレテ居ルカドウカ、例ヘバ手旗信號ノ如キハ今日商船乗組員デ之ヲ自由ニ扱フ者ハ、殆ンド十人ノ中一人位シカアリマセヌ、會社ヲ云ヘバ一流ノ會社以外ノ者ハ殆ンド手旗信號ハ出來マセヌ、ソレカラ「モールス」信號ノ如キハ殆ンド出來ナイ、是ハ私最近船ニ乗ツテ經驗シタノデアリマスガ、相當一萬「トン」位ノ船ノ「オフイサー」デモ「モールス」信號ヲ以テ外國ノ船ト自由ニ信號ガ出來ナイ狀態デアリマス、「モールス」信號ハ姑ク措キマシテ、手旗信號デ日本ノ護衛スル艦船ト、護衛サレル所ノ商船トノ間ニ信號ヲスル、此ノ點ハ昨日御尋ネシタノデスガ、サウ云フ場合ハ海軍ノ方カラ信號兵ヲ分テ戴クヤウニナルドラウト云フコトデアリマシテ心配

ハアリマセヌガ、併シ海軍ノ方デモ兵員ニハ限リガアリマスカラ、是ハヤハリ平素カラサウ云フ軍事的教育ヲ、モツト徹底シナケレバナラス、今日商船學校デハ所謂小銃ヲ擔イデ操縦ヲスルト云フヤウナコトヲヤツテ居ル、又砲術學校ヘ行クト云フヤウナコトモヤツテ居リマスガ、商船學校自體ノ教育ニ於テ直チニ斯ウ云フ場合ニ處スル所ノ教育ガ、徹底シテ居リマセヌ、又航海術ニ於テモ海軍ノ艦船デヤツテ居ル航海術ト、商船ノ航海術トハ、大分最近ニ於テ近付イテ來タノデアリマスガ、依然トシテ商船學校ノ航海術ニ對スル教育ハ、昔ノ航海術ヲ幾分デモ教ヘテ居リマス、即チ今日カラ見レバ所謂前世紀ノ遺物ノ如キ航海術ヲ教ヘテ居ル傾キガアルノデアリマス、ソレカラ運用術ニ於テモ同様デアアル、機關術ニ於テモ恐ラク同様デアアルドラウト思フノデアリマス、更ニ昨年起リマシタ不祥事件デアアル淺間丸事件ノ時ニ於テ、兎角ノ議論ガ起リマシタノデアリマスガ、アノ問題モ船長以下ノ乗組員ガ、日本ノ海戰法規、或ハ英國其ノ他米國等ノ海戰法規ヲ十分ニ能ク熟知シテ、アア云フ場合ニ直チニ處スルコトガ始終頭ノ中ニ入ツテ居レバ、アア云フ時ノ問題モ少クトモ船長ニ關スル非難ト云フモノハ起ル筈ハナイ、此ノ點ガ所謂商船學校ノ教育ト云フモノガ、甚ダ遺憾ナ點ガアルデヤナイカト考ヘマスガ、是ハ勿論學校ハ文部省或ハ遞信省デアリマスガ、海軍御當局トシテハ此ノ點ニ付テ、是等ノ省ニ何カ此ノ際御注文ヲサレル必要ガアルト御認メニナルノデアリマスガ、或ハ是々ノ點ハ海軍トシテハ改善ヲ望ムモノデアルト云フ具體的ナ事例ヲ御伺ヒ出來レ

バ結構ト思ヒマス

○保科政府委員 只今ノ御質問ニ御答ヘ致シマス、船員ノ教育ハ非常ニ大事デアリマス、先程モ御意見ガアリマシタ通りデアリマスガ、實際船員ノ教育ガ出来テ居リマセスト、船舶ノ護送ノ目的ヲ達成スルコトガ出来ナイノデアリマス、随テ前々カラ海軍デハ、御承知ノ通り商船學校ニハソレノ教官教員ヲ派出致シマシテ、適當ナル軍事教育ヲヤツテ居ルコトハ既ニ御承知ノ通りデアリマス、其ノ外ニ此ノ事變ガ起リマシテカラ、遞信省デ實施致シテ居リマスル船員講習ニ、海軍カラモ講師ヲ出シマシテ必要ナル國際法規トカ、或ハ今御話ガアリマシタヤウナ必要ナル事項ヲ實際教ヘテ居リマス、ソレダケデナク實際此ノ法案ガ實施サレルコトニナリマシタハ、此ノ法ノ實效ヲ期スル上ニ於テ、モット高度ノ要求ナリ、實施ナリヲセナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、此ノ法ノ實施ト同時ニ具體的ニ省令等モ出来マスガ、御相談ノ上ヤラウト云フ風ニ考ヘテ居リマス、現在實施シテ居リマスノハ戰時船長服務心得、或ハ商船隊運動並ニ通信、輸送隊ノ運動或ハ通信規定トカ云フヤウナモノハ、極ク必要ナ、萬一ノ場合ニ應ズル最小限度ノ講習ダケハ實施ヲ致シテ居ルヤウナ次第デアリマシテ、益々強化シナケレバナラナイト考ヘテ居リマス

○米窪委員 是ハ文部當局、遞信當局ニ御尋ネシナケレバナラヌガ、先程御質問申上ゲタ點ヲ具體化スル爲ニ、海軍省カラ今日商船學校及ビ遞信省關係ノ船員養成所ニハ配屬將校或ハ配屬將校ヨリモ更ニ特別教授ト云フ名前デ行ツテ軍事教育ヲ施サレテ居ルノデアリマスガ、私ハ百尺竿頭一歩ヲ進

メテ、席上學科ニ海軍ノ現役將校ガ行カレテ、海戰法規其ノ他斯ウ云フ場合ニ處スル爲ノ必要ナル教育ヲ施サレル必要ガアルト私ハ考ヘテ居ル、又高級船員ニ對スル海技免狀ノ試験官、所謂船長以下運轉士、機關長、機關士ノ免狀ヲ貰フ爲メノ試験ノ試験官ニモ、遞信省ノ役人バカリデナシニ、海軍省ノ方モ其ノ試験委員ニナツテ、斯ウ云フ問題ニ對シテ、所謂軍事ニ關スル極ク輕イ試験デ宜イノデスガ、サウ云フモノヲ課スル御考ヘハナイカ、少クトモ高級船員ニ對シテ免狀ヲ與ヘル時ニ、海戰法規ノ極ク簡單ナモノ位ハ、海軍省カラ行カレタ試験委員ガ試験サレルコトガナイト、所謂高度國防國家ト云フコトガ二言目ニハ出テ來ル今日ノ際ニ於テ、私ハ徹底セヌト考ヘルノデアリマスガ、以上一ツ點、商船學校ノ席上學科ニ海軍ノ現役軍人ガ行カレテ教官ニナル、遞信省關係ノ海員免狀ノ試験ノ試験官ノ中ニ海軍省ノ方ガ入ルコトヲ御希望サレルノデアアルカドウカト云フコトヲ御尋ネ致シマス

○保科政府委員 只今ノ御質問ニ對シテ、海軍トシテハサウ望ンデ居ル譯デアリマスガ、十分ニ關係當局ト御話ヲ致シマシテ、實現ヲ期シタイト考ヘテ居リマス、實際問題トシテ現在並ニ將來ノ事態ヲ考ヘマスト現在デハ到底吾々ノ任務達成ハ出来ナイト考ヘテ居リマス、相當突込ンデ、少クトモ此ノ保護ノ目的ヲ達成スル範圍ニ於テ十分ニ協調シテヤラナケレバイカヌト考ヘテ居リマス、尙ホ之ニ關聯シテ、斯ウ云フヤウナモノガ完全ニ行ハレマス爲ニハ、先程次官カラモ御話アリマシタ通り、ドウシテモ機構其ノ他、人的接觸ト云フモノガモツ

トモツト密接ニナラナクテハナラヌ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス

○米窪委員 海軍御當局ニ對スル御質問ハ是デ打切りマス、海軍御當局ニ對スル他ノ同僚委員ノ御質問ガナケレバ、遞信省ノ方モ御見エニナツテ居リマスカラ、遞信省關係ノ御質問ヲ致シタイト思ヒマスガ……

○井上(知)委員 一寸——本法ハ戰時立法トシテ洵ニ當ヲ得タ立法デアルト思ヒマスガ、海軍ト商船トハ平時ニ於テモ非常ニ密接ナ關係ガアルコトハ、是ハ私ガ今更申上ゲヌデモ宜イコトデアリマスガ、海軍旗ノ輝ク所商船隊之ニ伴フト云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマス、所ガ本法ハ戰時ノ立法デアリ、且又保護法デアリマス、其ノ爲ニ此ノ命令又ハ指示ニ背キマス罰則ガ可ナリアルヤウデアリマス、取締ルモノト取締ラレルモノトハ、罰則ガアルノハ當然デアリマスガ、今日マデ非常ニ密接ナ關係ヲ海軍ト商船隊トガ持つテ來タ、所ガ罰ヲ受ケルモノハ動トモシマス罰ヲ食ハセルモノニ對シマシテ敵視、反感ヲ持チマス、今日吾等ノ生命財產ハ警官ニ依ツテ護ラレテ居リマスケレドモ、取締ヲ受ケマス人民ハ、動モシマスレバ警官ヲ憎ミマス、ソレデアリマスカラ、罰則ヲ受ケル船舶業者乃至ハ航海業者ト云フヤウナ人達ニ、是ハ有難イ保護法デアリマスケレドモ、此ノ運用ニ當リマシテハ、決シテ海軍當局ナリ其ノ他ノ關係當局ヲ恨ムト云フヤウナ氣風ヲ馴致セシメナイヤウニ、十分ノ御注意ヲ御願ヒ致シタイト思フノデアリマス

○保科政府委員 只今ノ御注意洵ニ有難ウゴザイマス、吾々モ全クサウ云フヤウニ考ヘテ居リマス、此ノ法ヲ施行スル前ニハ業

者並ニ主ナル人々ニハ十分ニ此ノ法ノ趣旨ヲ説明致シマシテ、此ノ法ニ限ツテハ罰則ハ一切適用シナクテモ宜イト云フ狀態ニナランコトヲ期待シテ、海軍ノ總テノモノハ努力スル考ヘデゴザイマス

○平川委員 他ニ海軍ノ方ニ對スル御質問ハアリマセヌカラ——米窪君

○米窪委員 遞信省ノ政府委員ノ方ニ御尋ネ致シマス、私昨日參考資料ノ御提出ヲ御願ヒスル爲ニ「リスト」ヲ差上ゲテ置イタノデスケレドモ、其ノ中ニ私ノ聽カントスル要點ヲ記シテアリマスガ、マダ其ノ資料ノ御配付ヲ受ケナイノデ、質問スルノニ能率的ナ質問ガ一寸出来マセヌケレドモ、先ツ御聽キシタイノハ、本法ノ第三條ニ密接ナ關係ヲ持つテ居ルノデスガ、今日ノ船員ノ需給關係バドウデアアルカ、是ハ私、念押シテ置キマスガ、遞信省トシテハ今マデノ船員職業紹介所カラ來テ居ル、アア云フ統計ニ基イテノ御答辯ナラ私ニハ既ニ分ツテ居ル、又ソレデハ實情ト非常ニ離レテ居リマスカラ、一ツ遞信當局トシテハ本當ニ船主ノ聲、或ハ船員ヲ取扱ツテ居ル團體ノ聲ヲ本トシテ御答ヘ願ヒタイ、アア云フ船員職業紹介所カラ來テ居ル報告ナント云フモノハ、決シテ杜撰トハ申シマセヌケレドモ、併シ餘リニ數字ニ囚ハレテ、實情ハ全然ソレニ伴ツテ居リマセヌ、實例ヲ申上ゲマスト一種ノ社會不安ヲ醸成致シマスカラ、申シマセヌガ、今日船員ガ足ラナイ爲ニ數日間停船スル船ハ相當多イ、殊ニ高級船ニ於テ多イ、今日六十歳或ハ七十歳ト云フヤウナ船長ヲ狩リ出サナケレバ船ガ動カナイト云フ實情ニアル、機關長ノ如キハ、ヨボ／＼シテ、船ノ「タラップ」ヲ「ボーイ」ガ手ヲ取ツ

テ上ゲテヤラナケレバ、上レナイヤウナ機關
長ヲ使ツテ居ル、是ハ事實デス、是ハ洵ニ憂
フベキ現象デアリマス、其ノ原因ハ多々ア
リマスガ、是ハ遞信省ノ方々モ御承知デア
ラウト思ヒマスケレドモ、之ニ對シテ私ノ見
ル所デハ、何等適切有效ナル對策ヲ講ジテ居
ラナイ、昨年ノ十月カラ船員職業紹介所ト云
フモノガ國營ニナリマシタケレドモ、私ハ卒
直ニ言フト、國營ニナツテカラ成績ガ惡イ、
ナゼ惡イカト云フト、其ノ衝ニ當ツテ居ル
所ノ役人ガ餘リ官僚風ヲ吹カシテ居ル、

〔委員長退席、小林(房)委員長代理着
席〕

今マデ公共團體ガヤツテ居ル時ニハ、オト
ナシク丁寧親切ニシテ居ツタ同ジ人間ガ、
忽チ一日ノ中ニ國營ニナツタカラト云ツテ、
役人風ヲ吹カシテ、實ニ態度傲慢、粗暴ニ
シテ、サウシテ船主ノ代理者或ハ船員ガ行
ツテモ、マルキリ鼻ノ先デアシライ、木デ
鼻ヲカムヤウカ態度デ、極メテ不親切デア
ル、是ハハツキリ此ノ席上デ言ツテ置キマ
ス、之ニ對シテ係リノ遞信省ノ方々ガ御戒
飭ナサツテ居ルガラウト思ヒマス、オ耳ニ
入ラス筈ハナイカラヤツテ居ルト思ヒマス
レドモ、洵ニ此ノ弊風ガ直ラナイ、何ダカ
非常ナル高官ニデモナツタ積リデ、其ノ態度
ハ迎モ問題ニナラナイ、ソレハ何處ノ紹介所
カト云フコトヲ御聽キニナレバ、何時デモ
場所ハ申上ゲマスガ、此ノ席上デハ言ヒマセ
ス、是モ一ツノ原因デアリマス、ソレカラ今
ノ船員ニ對スル所謂待遇ガ、惡イトハ言ヒ
マセスケレドモ、適正デナイ、或ル所ハ非
常ニ良イガ、或ル所ハ非常ニ惡イ、甚ダ貴
重ナル時間ヲ拜借シテ相濟ミマセヌガ、極
メテ重要ナルコトデアリマスカラ一ツノ例

ヲ申上ゲマスト、今日船ニ乗ル時ニハ水夫
見習、火夫見習、賄夫見習ト云フモノガア
リマス、是ハ吾々ノ方デ所謂「山出シ」ト言ヒ
マス、山カラ出テ來タバカリデ船ノ舳ガド
ツチデ舳ガドツチデ、錨ハ舳カラ入レルノ
カ、舳カラ入レルノカ分ラナイヤウナ者デ
ス、併シ其ノ水夫見習ガ船ニ乗ルト忽チ二
十五圓ノ給料デス、其ノ外ニ食料ガ付ク、
サウシテ火夫見習ハ仕事ガ酷イ、或ハ之ニ
應ズル者ガ少イト云フコトデ、十圓ノ差ヲ
付ケテ、三十五圓、賄夫見習ハ二十圓、斯
ウ云フ初任給デアリマス、所ガ是ハ半年ト
云フ規定ニナツテ居リマスカラ、半年經ツ
ト所謂船員ノ需給關係デ、皆四十圓ニナツテ
シマフ、又サウシナイト船ヲ下リテシマヒ
マス、サウシテ半年經ツト四十圓ニナル、
所謂一人前ノ船員ニナル、果シテ四十圓ノ
値打ガアルカドウカ分リマセヌガ、四十圓
ニナル、サウシテ船主トシテモ或ハ遞信省
トシテモ、海軍省トシテモ、サウ云フ者ハ
同ジ船ニ長イ間勤メテ、サウシテ熟練シテ
貰ヒタイノハ山々デアルニ拘ラズ、茲ニ奇
妙ナ現象ガ起ル、一箇月カ二箇月經ツト下
リル、本人ガ自發的ニ下リナイデモ、陸ニ
「ボーレン」ト云フモノガアツテ、國立ノ職業
紹介所以外ニ、所謂私ニ船員ヲ紹介スル人
間ガ居リマシテ、是ガオ前下リテ來イ、サ
ウスレバ四十二圓ニ上ゲテヤルカラ來イ、
サウ云フ者ガ他ノ會社ト結託シテ、僅カ二
月カ三月經ツト船員ヲ下シテシマウ、船ニ
乗ツテ居レバ一年經ツテモ四十圓又ハ四十
一圓位デ釘付ニナル、政府ノ所謂「ストツ」
令ガ出マシテ給料ヲ上ゲナイ、或ハ會社ノ
規定デ一年經タナケレバ一圓又ハ二圓上ゲ
ナイト云フ規定ガアル、ソコデ脱法行爲ヲ

ヤツテ中途デ下リテ、サウシテ他ノ會社デ
雇入レル時ニハ四十二圓カ四十三圓ヲ貰フ
僅カ八箇月位デ四十二圓、四十三圓ト云フ
給料ヲ貰ツテ居ル者ガアル、サウシテ他方
同ジ船ニ辛抱シテ居ル者ハ一圓位シカ上ラ
ナイ、實ニ馬鹿ラシイ、今日滔々トシテ此
ノ弊風ガ海運界ニ流レテ居ル、ダカラ同ジ
船ニ長ク居ラナイ、隨テ海上實歴ハ少クテ
モ給料ハ上ル給料ガ「ジャンプ」スルカラ途
中船カラ下リル、斯ウ云フコトヲ遞信省ハ
御承知ナイ筈ハナイ、斯ウ云フヤウナ不熟
練ナ不當ナ——私ハ不當ト云フ言葉ハ使ヒ
タクアリマセヌガ、海上實歴ガ足ラナイ、
不熟練デアルト云フコトニ對シテ全く不當
デアル、ソコデ船ニ殘ツテ居ル者ハ一年經
ツテモ四十圓カ四十一圓、船カラ下リテ行
ク者ハ僅カ二箇月カ三箇月デ以テ四十二圓、
四十三圓ニナル、ナゼカト云フト、今マデ
海事協同會ト云フモノガアリマシテ、標準
料トカ、最低賃金ナドト云フモノヲ協定
シ、一年經タナケレバ上ゲナイゾト云フ協
定ガアル、ソレハ遞信省モ認メテ居ル、デ
アルカラドウシテモ一年經タナイ間ハ、船
ヲ下リナイ、下リナイカラ一圓モ上ラナイ、
所ガ船ヲ下リルト今ノヤウナ方法デ二圓、
三圓ハ直上ル、私ハ決シテ上ルコトヲ惡
イトハ言ヒマセヌ、併シナガラ一方ニ於テ
眞面目ニ働イテ居ル者ハ上ラス、殊ニ職長
ト稱スル水夫長、火夫長、賄夫長ト云フモ
ノハ、何年經ツテモ七十五圓、八十圓ト云
フ程度以上ニハ上ラナイ、海上實歴二十五
年、三十年ト云フ者デモ僅カ八十圓、九十圓
デアル、サウシテ「山出シ」デ僅カニ船ニ乗ツ
テ七、八箇月ノ者ガ四十三圓取ルト云フコト
ニナル、サウシテ段々上ノ者ヲ追越スト云

フコトニナル、併シサウ云フ場合デモ、下
ノ者ハ數デコナスカラ幾ラデモ他ノ船ニ乗
リ移ルコトガ出來マスケレドモ、上ノ者ハ數
ガ少イカラ他ノ船ニ乗ル「プロバビリティ」
ガ少イカラ、已ムヲ得ズ船ニ殘ツテ居ルト云
フ狀態デアリマス、此ノ弊風ハ本法ニ直チニ直
接關係シマス、所謂「コンヴォイ・システム」ヲ
ヤルニハ熟練船員ガ其ノ船ノ總數ノ何「パーセ
ント」カ乗ツテ居ラナイト、即チ船ノ向キガド
ツチニ向イテ居ルヤスラ分ラナイヤウナ者計
リ乗ツテ居ツテ、各船ノ間隔ヲ八百「メート
ル」取レ、五百「メートル」間隔ヲ取レト云フ
「コンヴォイ・システム」ガ取レマスカ、此ノ際
ニ於テ遞信省ハ今日ノヤウナ所謂船員ノ募集、
或ハ需給關係、斯ウ云ツタヤウナ點ニ付テモ
非常ナ猛省ヲシテ、何トカ所謂拔本塞源的、
徹底的ナ對策ヲ講ジナケレバナラス、今マデ
ノヤウナ慣習デヤツテ居ツテハイケナイト思
フ、此ノ點ニ付テ何カ御考ヘガアリマスカ
○松永政府委員 船員ノ問題ニ付キマシテ
ハ、只今米窪サンカラ續、御話ノアツタ點
ハ當局ト致シマシテモ色々ト話ヲ伺ツテ居
リマス、而シテ之ニ對スル對策ガ從來ドウ
デアツタカト云フ點ニ付テハ、此處デ一々
申上ゲルヨリモ、寧ロ米窪サンアタリノ能
ク御承知ノコトト思ヒマス、唯船員ノ需給
狀況ナリ或ハ教育及ビ募集狀況ト云フモノ
ガ、現在満足ナ狀態デナイト云フコトハ、十
分承知シテ居リマス、之ニ對スル對策ト致
シマシテドウ云フコトヲ考ヘテ居ルカト云
フ問題ニナルノデアリマスガ、只今御話ノ
ヤウニ給料ガ「ジャンプ」シテ行クモノハ、
ドン／＼動クト云フコトモ事實デアリマス、
之ニ對シマシテハ當初吾々ト致シマシテハ、
船員ノ給與統制、ソレカラ會社ノ使用統制

ト云フヤウナ、總動員法ノ勅令ヲ發動致シマシテ、一方給與「ジビシ」ヲ止メルト言フト甚ダ語弊ガアルカト思ヒマスガ、各社間ニ於ケル、各職階ニ於ケル、非常ナ不均衡ト云フモノヲ「バランス」ヲ取ツテ行キタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス、ソレカラ船員ノ使用等ニ付キマシテハ、或ル所ニ豫備員ガアルトスレバ、ソレヲ他ノ所ニ廻ハスト云フヤウナ方策ニ付テモ考ヘテ居リマス、ソレカラ募集ノ問題デアリマスガ、從來「ボーレン」ト云フヤウナモノヲ經テ來テ居ルコトノ方ガ、或ハ現實ノ場合ニ船員ヲ募集スル場合ニハ、都合ガ好イ場合モアツタカト思ヒマスガ、是ハ國營移管ニ致シマシテ趣旨ハ、豫テカラ昨年アタリ申上ゲテアルト思ヒマスガ、此「ボーレン」ト云フモノガ、船員ノ所謂給與ニ及ボス影響ト云ツタヤウナモノヲ考ヘテヤツタノデアリマス、唯其ノ職業紹介所ノ實績ガ果シテ満足デアアルカト申シマス、吾々モ決シテ之ヲ満足ト思ツテ居リマセス、全面的ノ船員對策ト致シマシテハ、高度國防國家ノ情勢ニ應ジマシテ、又船員ノ教育ニ付キマシテモ、關係各廳ト能ク連絡ヲ取リマシテ、商船隊トシテ活動スルニ萬遺憾ナキヲ期シタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○米窪委員 ドウモ私ノ質問ノ點ニ付テ、十分ニ納得スルヤウナ御答ヘガナカツタノデアアルガ、具體的ニ申シマス、**「ボーレン」**ガ惡イコトハ分ツテ居ルノデアアルカラ、**「ボーレン」**ヲ撲滅スルコトニ付テハ遞信省タケデハ駄目デス、内務省トモ協議シナケレバナラス、**「ボーレン」**ヲ撲滅セヨト云フコトハ、私ハ前カラ言ツテ居ルノデスガ、之ニ對シテ何等ノ御對策モ執ツテ居ラ

レス、或ル遞信局ノ或ル海事事務官ガ之ニ對シテ相當強硬ナル態度ヲ執リ掛ツタ所ガ、是ガ何處カラカ制肘サレテ、マサカ本省カラソレハヤリ過ギルゾト言ツテ來タ譯デハアルマイガ、兎切レ蜻蛉デ有邪無邪ニナツテシマツタ、斯ウ云フコトガアルノデアツテ中々一朝一夕ニハ行カナイ、併シ、今日新體制トカ何ダ彼ダト云フ譯デ、今マデノ船員團體ハ皆イケナイ、解散シロ、サウシテ翼賛會デヤツテ行ク、或ハ海運報國團デヤツテ行クト云フ意氣込デヤツテ居ラレノデアアルカラ、**「ボーレン」**位ヲ撲滅スルノニ遠慮サレル必要ハナイ、是ハ遞信省ニ於テ一ツ奮發シテオヤリニナルベキデアルト考ヘルガ、之ニ對シテ何カ御考ヘガアルカドウカ、ソレカラ今日高級船員ガ非常ニ拂底シテ居ル原因ノ一ツハ前ニ申シマシタガ、モウ一ツノ原因ハ、有力ナ會社——斯ウ言ヘバ有力ナ會社ハサウ澤山ナイカラ、ドレカ大體御推察ハ付クデセウガ、其ノ有力ナ會社ガ豫備員ト云フ名ニ於テ、船ノ第一線ニ立ツテ働イテ居ル船員ノ數ト比較シテ、非常ニ多クノ高級船員ヲ陸上デ抱ヘテ居リマス、是ハ船員徵用令ガアリ、船員ノ爭奪ヲ防止スル爲メ省令ガ儘力出デ居ル筈デアリマス、私暫ク其ノ方ヲ離レテ居リマシタカラ忘レマシタガ、兎ニ角頻々トシテ勅令ナリ省令ナリガ出テ居ル筈デス、サウシテサウ云フコトヲ防止シテ居ル筈デス、所ガ一向其ノ實ガ擧ラナイ、遞信省ハ有力ナル會社、例ヘバ郵船、商船、或ハ三井ト云フヤウナ有力ナ會社ニ何等カ遠慮ヲサレテ居ルカ、或ハ長鞭馬腹ニ及バズデ以テ手ガソコマデ及バナインカ、兎ニ角サウ云フ會社ヲ御調ベ願ヒタイ、唯會社ヘ出テ判ヲ捺シテ給料ヲ貰ツテ遊ン

デ居ル高級船員ガ非常ニ多い、私ニ言ハスレバ、アア云フ會社ノ監督ナント云フモノハ殆下大シタ仕事ハシテ居ナイ、監督ナンカハナクテモ宜イ、ソナモノハ陸上デ高級ヲ與ヘテ置ク必要ハナイ、況ヤ監督ノ下ニ副監督アリ、監督助手アリ、サウ云フ名義デ澤山ノ高級船員ガ竝ンデ机上デ事務ヲ執ツテ居ル、船員徵用令ハ何ノ爲ニ出シテ居ルノカ、一方社外船ニ於テハ七十ニモナルヨボ／＼ノオ爺サンガ船長ヲヤツテ居ル、危クテシヨウガナイ、**「ブリッヂ」**デヨロヨロト轉ガリサウデス、サウ云フモノヲ使ツテ居ツテハ海難ガ起ルノハ當リ前デアツテ、**「コンボイ」**ノ場合デモ其ノ船ガ危ナイバカリデナク、隣ノ船ガ危險デス、所ガ一流ノ會社デハ豫備員ト云フ名前ニ於テ、立派ナ若い高級船員ガ唯會社ヘ出テ來テ、ヤツテモヤラスデモ宜イヤウナ仕事ヲヤツテ居ル有様デス、斯ウ云フ點、遞信省ガ一ツ今マデ度々出シタ法令ヲ以テ、オ前ノ方ノ會社ノ者ヲコナラノ方ヘ貸シテヤレ、オ前ノ方ハ是ダケ人間ガ多イノデアアルカラ、是ダケ足ラス方ヘ廻ハシテヤレト云フヤウニ、天降リノ命令ヲ出シテオヤリニナラナケレバナラス、會社ガ何ト云ツテモ宜イ、サウデナイト、**「コンボイ」**・**「システム」**ニ關スル法ヲ出シテモ、之ヲ動カス船員ノ點ニ於テ行詰マルト思フガドウデスカ、此ノ二點ニ付テ御尋ネシマス

○松永政府委員 **「ボーレン」**ノ對策デアリマスガ、是ハ御承知デモアリマセウガ、共同施設、宿泊施設、或ハ金融對策ト云フヤウナモノト竝行シテ考ヘ合セマシテ、之ニ依ツテ**「ボーレン」**ノ方ヲ撲滅シテ行クト云フ風ノコトヲ考ヘテ居リマス、具體的方法

ハ目下研究中デアリマスガ、今度結成サレマシタ海員報國團ト云フヤウナモノモ其ノ一ツデアリマスガ、目下研究中デアリマス、ソレカラ只今有力會社ガ高級船員ヲ澤山抱ヘテ居ルガ、之ヲ均ラシタラ宜イデヤナイカト云フ御話デアリマス、此ノ點ニ付テハ今後高級船員養成制度ヲ擴充致シマスト共ニ、之ニ依ツテ不足ナ部分ニ對シマシテハ船員徵用令ヲ發動スルナリ、或ハ又使用統制令ト云フモノデ會社ヲ縛ツテ行キタイト考ヘテ居リマス

レルノカ、此ノ調子デハ私ハ日本ノ海員ノ素質低下ノ基ヲ作ルノハ、海運報國團デハナイカト心配ニ堪ヘナイ、今後ハドウカ知リマセヌガ、少クトモ今ノ狀態デハ海員ノ素質ヲ向上スル爲ニ結成サレタ海運報國團其ノモノガ、海員ノ素質ヲ低下シテ居ルノデハナイカ、私ハ之ヲ憂ヘルノデアリマス、僅カデハアリマスガ、今年ノ臨時追加豫算ヲ見マス、海運報國團ニ對スル補助金ガ出テ居リマス、サウスルト遞信省トシテハ之ニ補助スル關係カラ云ツテモ亦監督ノ立場カラ云ツテモ、重大ナル責任ガアル譯デアリマスガ、現在ノ海運報國團ノヤリ方ヲ以テ満足セラレテ居ルノデアルカ、或ハ又不滿デアルナラバ之ニ對シ戒飭ヲ與ヘラレル御考ヘガアルノデアルカ、之ヲ承リタイノデアリマス

○松永政府委員 海運報國團ニ對スル共同施設ト「ボーレン」對策ヲ關聯セシメテ考ヘテ居カト云フ問題ハ、先刻申上ガマシタガ、是ハ未定デアリマシテ、誰ニヤラセルカハ別トシテ、サウ云フコトモ考ヘテ居ルト云フコトヲ、一ツノ提唱トシテ申上ガタノデアリマス、御質問ノ海運報國團ノ現狀或ハ將來ノ對策ニ付テ御答ヘ申上ゲマスガ、海運報國團ハ結成後未ダ日ガ淺ク、僅々二三箇月シカ經ツテ居リマセヌ、ソコデ此ノ二三箇月ノ結果ニ依ツテ將來ヲトスルコトハ、ドウデアラウカト思ツテ居リマス、唯今後ドウ云フ風ニスルカト云フコトニ付キマシテハ、會社ノ規約其ノ他ニモ其ノ精神ガ織込デアリマスシ、アノ精神ガ達成セラレマスヤウニ、遞信省ト致シマシテモ、是非關係スル方面モ廣イノデアリマスガ、是非アレヲ役立テテ行キタイト考ヘマシテ、目

下着々具體的計畫ヲ研究中デアリマス、只今御話ノ今日マデノ聲價ト云フモノハ恐ラク挽回スベク、若シサウ云フ事實ガアリトスルナラバ、サウ云フコトハ拂拭スルヤウナ今後ノ活動ヲサセヨウト考ヘテ居リマス

○米窪委員 只今サウ云フ事實ガアルナラバト仰シヤイマスガ、是ハアルノデス、是ハ遞信省ノオ役人サンハ知ラナイ筈ハナイト思ヒマス、知ツテ居ツテ知ラナイ額ヲサレルノカ知リマセヌガ、私ノ申シタコトハソレハ事實アル、是ハ當局ノ耳ニ入ラナイ筈ハナイト思ヒマス、私ハ日本ヲ留守ニシテ居ツテ、此ノ二月ニ歸ツテ來タモノデスガ其ノ私サヘモ聞イテ居ル、是ハ御耳ニ入ラス筈ガナイ、デ私ハモウ一遍繰返シテ御尋ネシマスガ、海運報國團ハ勿論設立以後日ガ淺イノデ、ソレハ今ニ於テ兎ヤ角言フノハ酷デアリマスガ、少クトモ今日マデ三月經ツテ居リマス、今日マデノ海運報國團ノヤリ方、即チ一切ノ海上大衆トノ折衝ハ船主ニ任スト云フガ、海運報國團ノ「スタッフ」ハサウ云フ方面ハ少シモヤラナイ、サウシテ机ニ嚙リ付イテ書類バカリイデツテ居ル、斯ウ云フヤリ方ハ遞信省ハ宜シイト御考ヘニナルカ、或ハ其ノ點ハ甚ダ遺憾デアルト御考ヘニナルカ、其ノ點ヲ伺ヒマス

○松永政府委員 過去ノ三箇月ガドウデアツタカト云フコトニ付テハ、實ハ吾々ニモ色々ナコトガ耳ニ入ツテ居リマス、併シ私ハマダ日尙ホ淺クシテ、サウ云フコトモ或ハアルカト云フ程度ニ、事實ノ所認識ヲシテ居リマス、唯今後ドウスルカト云フ問題ニ付キマシテハ、是ハ海運報國團ハ獨リ船員ノ味方ト言ヒマスカ——ト同時ニ船主ノ味方デアル、サウシテ又政府ノ別働隊トシテ

ノ活動ヲ致シテ、一體トナツテ海運報國ノアノ綱領ヲ實踐サセルヤウニシテ行カナケレバイカヌ、ソレニハ少クトモ實踐的ナ仕事ヲ持タセナケレバイカヌト云フ風ニ考ヘテ、是ガ方法ヲ色々ト今研究シテ居リマス、是ハ唯研究々々ト申上ゲルト又或ハ御叱リヲ蒙ルカトモ思ヒマスガ、大體目鼻ガ付キ掛ケタモノモアリマス、左様ニ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス

○米窪委員 其ノ點ハ幾ラ押問答シテモ同ジデスカラ止メマス、昨日資料ノ提出ヲ御願ヒシテアルノデアリマスガ、最後ニ遞信當局カラ私ノ資料ニ對スル點ヲ一ツ口頭デ御説明ヲ願フコトニシマシテ、最後ニ質問スルコトハ、是ハアナタカラ大臣ニ御傳ヘヲ願ツテ、適當ナル機會ニ大臣カラ御答ヘヲ願ヒタイ、ソレハ何デアアルカト言フト、先程一寸海軍御當局ニ御質問シタ時ニモ觸レマシタガ、今日ノ商船教育ガ各省ニ互ツテ區々デアル、今日交通省ノ必要ガ認メラレ、サウシテ管船局ガ外局ニナルト云フヤウナ御準備サヘサレテ居ル時期ニ於テ、商船教育ダケガ、或ハ文部省デヤリ、或ハ遞信省デヤル、サウシテ其ノ間ニ於テ教育方針ガ、私ハ不統一トハ言ハナクテモ、シツクリ行カナイ點ガアリハセヌカト云フコトヲ惧レル、現ニ「コンヴェイ・システム」ト云フモノヲ法律トシテ出シテ、ソレニ適應スルヤウナ運用ヲ海上ニ於テヤラセヨウト云フ場合ニ於テ果シテ満足ニ行カト云フヤウナコトヲ考ヘル時ニ、現在ノ商船教育ダケデ十分デアルトハ考ヘマセヌ、是ハ是非トモ將來ニ於テ之ヲ統合シテ、サウシテ一ツ所カラ商船教育ノ大方針ガ發令サレナケレバナラナイト私ハ思フ、此ノ點ニ付テ一ツ遞

信當局ハドウ云フ御考ヘヲ持ツテ居ラレルカ、ソレカラ是ハ大臣カラ適當ノ機會ニ於テ御答辯ヲ願ヒマスコトニシマシテ、モウ一ツ政府委員ノ方ニ御尋ネシタイ點ハ、今日遞信省關係ノ商船教育ニ於テヤツテ居ラレル所ノ所謂教育ノ内容ハ、果シテ「コンヴェイ・システム」ト云フモノヲ構成スル時ニ、明日カラデモ間ニ合フヤウナ教育ヲサレテ居ルカ、此ノ點ダケヲ御伺ヒシマス

○松永政府委員 現在ノ教育方法ガ果シテ實際ニ間ニ合ツテ居ルカドウカト云フ御話デアリマスガ、所謂戰時ニ於ケル今ノ「コンヴェイ・システム」ノ場合ニ付キマシテハ、現在先程海軍當局カラ御話ノアリマシタヤウナ教育方針ヲ以テヤツテ居リマス、併シ今後之ヲ以テ十分満足スベキ狀態デアルカドウカト云フ御話ニ對シマシテハ、今回御審議ヲ願ツテ居リマス、船舶保護法ノ關係等ニ依リマシテ、海軍當局ト御相談ヲ致シマシテ、十分遺憾ナキヲ期シタイト考ヘテ居リマス

○米窪委員 遞信當局ニモウ一點伺ヒマス、此ノ本法ノ第二條及第三條ニ關聯ガ起ツテ來ルノデアリマスガ、例ヘバ第三條ニ關係ガアルト思ヒマスガ、一ツノ船ガ或ル豫定ノ航海ヲシテ或ル港ニ居ル時ニ、其ノ方面ノ船ニ對シ「コンヴェイ・システム」ヲ構成スル必要ガアルト海軍省ガ認メテ、サウシテ其ノ附近ニアル所ノ各船ニ集合ヲ命ズルコトニナル、此ノ時ニハ當然豫定ガ狂ツテ來ル、配船ノ豫定、或ハ航海ノ豫定、碇泊ノ豫定ガ狂ツテ來ル、此ノ點ニ付テ前ニ海軍當局ノ意向ヲ伺ヒマシタガ、遞信當局トシテモ、今日此ノ配船ニ付テハ中央輸送組合ト云フモノニヤラセラレテ居ルノデアリマ

スガ、斯ウ云フ所謂半官半民ノ機關ガ出來
テ居ルカラ、非常ニヤリ宜イト考ヘテ居リ
マスガ、サウ云フ場合ニ於テハ海軍省ハ事
前ニ遞信當局ニ相談ヲサレル、是ハ尤モ
コトデアル、併シ遞信當局トシテハ其ノ相
談ヲ受ケテ、直チニ中央輸送組合ヲ通ジテ
サウ云フ海軍ノ要求ニ應ズルダケノ手配ガ
出來ルカ、何分ニモ海外ニアル船ニ對シテ
中央輸送組合ヲ通ジテ命ゼラレルノデア
カラ、相當ノ時日ヲ要シ、又準備ヲ要スル
ノデアリマスガ、之ニ對シテ遞信當局ハソ
レニ付テ何等憂慮スルコトハナイト云フ御
確信ガアルカドウカ

○松永政府委員 只今御尋ネノ點ニ付キマ
シテハ、中央輸送組合ヲ通ジテヤル方法ト、
ソレカラ遠洋アタリニ行ツテ居ルモノニ對
シテハ、直接コチカラ打電スルト云フヤ
ウナ方法ニ依リマシテ、豫想セラレル場合
ハ大體手筈ヲ決メテ居リマス

○米達委員 最近ノ新聞デ見マス、遞信
省デハ海軍審議會ト云フモノヲ設ケテ、主
トシテ造船關係ノ「エキスパート」貴衆兩院
議員等ヲ委員トシテ、大キナ審議機關ヲ設
ケラレルヤウデアリマス、サウ云フモノガ
設ケラレルコトハ、今日ノ時局カラ言ツテ
當然必要デアルト思ヒマスガ、斯ウ云フ風
ニ海軍ト密接ナ關係ガ起ツテ來ルノデアリ
マスカラ、此ノ海軍審議會ト云フモノハ、
斯ウ云フ法案ノ生マレルト云フコトヲチヤ
ント考慮ノ中ニ入レテ、サウシテ此ノ方面
ノ「エキスパート」ヲ御入レニナルト云フヤウ
ナ御考ヘデ、オヤリニナツタノデアルカ、
單ニ「シッピング」ト造船トノ關係ヲ御考慮ニ
ナツタノデアルカ、或ハ更ニ進ンデ第二ノ
船員ヲ養成スル、即チ國民ニ對シテ海事思

想ヲ普及スルト云フヤウナ文化的、精神的
ナ事業ヲモ、此ノ海軍審議會ニ於テ之ヲ狙
ツテ居ラレルノデアルカ、海軍審議會ト云
フモノニ對スル所ノ輪廓ガ分リマセヌカラ、
若シ政府委員デ御分リデシタラ御伺ヒシタ
イ

○松永政府委員 今度海軍審議會ガ作ラレ
マシタノハ、大體御聽及ビデモゴザイマセ
ウガ、例ノ委員會整理ノ關係デ今法律案ガ
出テ居リマスガ、アア云フヤウナ關係モア
リマスガ、其ノ外ニ從來ノ臨時船舶管理法
ニ基イテ作ラレタ船舶管理委員會ト云フヤ
ウナモノデハ、今日ノ高度國防國家ノ下ニ於
ケル戰時海運行政トシテハ、甚ダ小サ過ぎ
ルト云フノデ、廣ク海事ニ關スル重要事項
ヲ審議スル爲ニ、此ノ會ヲ設ケタノデアリ
マスガ、之ニ付キマシテハ其ノ中ニ構成スル
所ノ「メンバー」ハ勿論官民並ニ軍部方面ノ
方モ入ツテ居ラレマシテ、船舶保護法關係
ノコトニ付キマシテハ、例ヘバ海員ノ整備
ト云フ問題ニ付テモ、ソレノ專門部會
ヲ設ケマシテ、戰時體制下ト云フカ、高度
國防國家ノ要請ガ満足セラレルヤウニ出來
テ居リマス

○米達委員 私人質問ニ對スル御答ヘデ重
要ナ點ガ一ツ落チテ居リマス、ソレハ詰リ
「コンヴォイ・システム」ト云フ、斯ウ云フ法案
ガ出テ來ルト云フコトニナルト、今日以上
ニ國民ニ日常海軍思想ヲモツト普及シナケ
レバイカヌ、詰リ現役ノ海員デナク、日本ノ
「ネキスト・ゼネレーション」ニ於テ優秀ナ
海員ヲ作ラナケレバナラス、ソレニハヤ
ハリ國民ノ間ニ平素カラ海軍思想ヲ普及シ
ナケレバナラスノデアリマスガ、是ハ極
メテ重要デアリマス、此ノ點ニ於テ遞信當

局ハ私ノ考ヘテ居ル程、重要性ヲ認識シ
テ居ラナイヤウニ、今マデノ様子デハ拜見
スルノデアリマスガ、此ノ海軍思想普及ト
云フコトニ關シテモ、海軍審議會デ御取扱
ニナツテ居ルノカ、之ヲ御伺ヒ致シタイノ
デアリマス

○松永政府委員 海軍審議會ニ於テ只今考
ヘテ居リマスコトハ、只今ノ御質問ノヤウ
ナコトハ差向キ考ヘテ居リマセヌ、併シ御
話ノ海軍思想ノ普及ト云フ點ニ付キマシテ
ハ、從來モサウデアリマスガ遞信省ガ、色
色ナ民間團體ト申シマスカ、ソレ等ヲ通ジ
マシテ一層其ノ普及ヲ圖ツテ居リマス、遞
信當局ガ大シテ熱心デハナイト云フヤウナ
御話デアリマスルガ、大體優良ナル船員ヲ
得ヨウトスレバ、先ヅ「ネキスト・ゼネレ
ーション」カラ本當ニ海ニ喜ンデ出テ來ルト
云フコトガ第一要件ダト思ヒマス、其ノ思
想ニ立脚シマシテ、海事思想モ普及シナケ
レバナラスト思ヒマス、ソレト同時ニ海運
界ノ現狀ヲ打開致シマシテ、皆ガ郷里ニ歸
ツテモ立派ナ船員デアルト認メラレ、子供
モ船員ニナリタイト云フヤウナ方面ニ、名
實共ニ持つテ行カナケレバイカヌト云フコ
トヲ考ヘテ居リマス、然ラバ是ガ具體的方
策ハドウカト云フコトニナリマス、色々
ト是ハ影響スル所モアリマシテ、又慎重ナ
考慮モ要スルト思ヒマスガ、大體サウ云フ
線ニ沿ヒマシテ、目下鋭意研究中デアリマ
ス

○米達委員 優良ナ海員ヲ得ル方法ハ松永
サンノ仰シヤル通り、所謂國民ニ對スル海
事思想ノ普及ト待遇ヲ良クスルト云フ方面
ト二ツアリマス、是ハ私モ同感デス、唯民
間ノ各種ノ團體ト協力スルト云フ御言葉ヲ

承ツテ、私ハ失望シマシタ、海事思想ヲ普
及セントスルソナ團體ハナイノデス、少
クトモ海軍省ノ方デハ色々ナ會ガアツテ、
海事思想モ普及サセテ居リマスガ、遞信省
ノ方ハ甚ダ遺憾ナガラソレガ無イノデス、
是ハ松永サンノ御言葉デアルガ、洵ニ残念
デス、此ノ點ハ至急遞信省ハ海軍省ト「タイ
アップ」シテ、海事思想普及ノ團體ヲ御作リ
ニナルコトヲ御勸メ申上ゲタイノデアリマス、
是デ遞信省方面ニ對スル質問ヲ終リマス
ガ、昨日私ノ請求シマシタ資料ニ付キマシ
テ、一ツ數字ノ御發表ヲ願ヒマス

○小林(房)委員長代理 ソレヨリ先ニ文部
省ノ方ノ御質問ヲ願ツタラドウデスカ
○松永政府委員 數字ハ祕密會デ……
○米達委員 ソレナラバ文部省ニ御伺ヒ致
シマス、文部省ニ對スル質問モ大體遞信省
ニ對スル船員教育ニ關スル質問ト同様デ、極
メテ簡單デアリマス、是ハ私決シテ文部省
ガ船員教育ニ當ルコトヲ不適當デアルトハ
言ヒマセヌガ、少クトモ海軍行政ヲヤツテ
居ルノハ遞信省デアル、其ノ海軍行政ニ關
係アル海員ヲ養成スルノハ、船員教育機關
デアリマス、隨テ常識カラ言ヘバ、是ハ當
然文部省デオヤリニナツテ居ル今ノ船員教
育機關ニ關スル行政ハ、早晩是ハ遞信省ノ
方面ヘ御移管ニナルベキガ本當デハナイカ
ト考ヘマス、此ノ點關口サンノ御答辯ガ難
カシケレバ、適當ノ機會ニ於テ文部大臣カ
ラ御發表ヲ願ヒタイト思ヒマス、今日ノ文
部省關係ノ高等商船學校ト云フモノハ大分
アリマシテ、所謂東京ト神戸ノ外ニモ昨年七
バカリ出來タ、サウシテ航海科ト機關科ハ大
抵ノ所ハ併置シテ居リマスガ、私ニ言ハスレ
バ例ヘバ東京ト神戸ノ兩商船學校ノ中其ノ

一方ヲ航海專門ノ學校ニシ、他ノ一方ヲ機關專門ノ學校ト云フコトニシナケレバナラスト思フノデアリマス、又教授ノ内容ニ付テモ、航海術或ハ運用術、機關術等ニ於テ所謂舊體制ノ教育内容ガ相當殘ツテ居ルト考ヘマス、餘リ舊體制ト云フ言葉ハ使ヒタクナイガ、詰リ今日ノ時勢ニ適シナイ教育ガ相當殘ツテ居リマス、ソレガ爲ニ無駄ナ時間ヲ學生ガ重ク負擔セラレテ居ルト思フノデアリマス、例ヘバ船ノ位置ヲ見イダス航海術ノ如キモ所謂「ニューナビゲイション」「ツツ宜イノガ」「ロング・バイ・クロ」「シンドル・ジョンソン」「ダブル・ジョンソン」ナドヲ教ヘテ居ル、ソナコトヲ教ヘルコトモ無駄デハナイト思フガ、勿論商船ノ位置ヲ出スノガ目的デ、天文學ヲ研究スルノガ目的デハナイガ、天文學ト云フモノニ基礎ヲ置イテ來ナイト、航海術ハ教ヘラレナイト言ヘバソレマデアルガ、サウ云フ所ハ極ク簡單ニシテ、サウシテ「ジプス・ボジション」ヲ出スト云フコトニカヲ入レルト云フ簡單ナル方法ガ、一番宜イノデハナイカ、サウシテ其ノ餘ツタ時間デ海戰法規ヲ教ヘルトカ、或ハ今日ノ時勢ニ適應シタ所ノ教育ヲスルト云フコトガ必要ダト思フノデアリマス、以上申上ゲタ點デ、今日ノ所謂教授ノ内容ト云ヒマスカ、教材ト云ヒマスカ、サウ云フ點ニ付テ文部御當局ハドウ御考ヘニナツテ居ルカト云フコトヲ、關口サンカラ御答辯ヲ願ヒタイ、ソレカラ教育機關ヲ統一スルト云フ最初ノ質問ニ對シテハ、適當ナ機會ニ文部大臣カラ御答ヘテ願フヤウニ、アナタノ方カラ御傳ヘテ願ヒタイト思ヒマス

○關口政府委員 米窪サンノ御質問ニ御答

ヘ申上ゲマス、第一點ノ商船教育ヲ海事主管省デアリマス所ノ遞信省ニ移管スル問題ニ付キマシテハ、大臣カラ御答辯申上ゲベキデアリマスナラバ、尙ホ大臣ト連絡ヲ致シマスガ、私ヨリ一應此ノ際其ノ點ニ付テノ當局ノ考ヘヲ申上ゲサセテ戴クコトヲ御許シ願ヒマス、御話ノ通り商船教育ハ、海運ニ從事致シマスル特殊ノ技能修練ヲ積ンダ者ヲ養成スル所デ、海事行政或ハ海運界一般ノ事情等ニ通曉シテ居ル者ガ之ニ當ル方ガ、ヨリ宜イト云フ御説モ一應アルカト存ジマス、唯片一方カラ考ヘマス、洵ニ僭越デアリマスケレドモ、何ト申シマシテモ教育ノ事ハ官制ニ依リマシテモ文部省ノ所管ニナツテ居ル譯デアリマシテ、又少シ言葉ガ過ギマスケレドモ、教育ト云フ部面ダケヲ取ツテ考ヘマスレバ、餅屋ハ餅屋デアリマシテ、知識ヲ授ケ、技能ヲ與ヘ、又人物ノ鍊成ヲスルト云フコトニ付キマシテハ、當局ト致シマシテハ、文部省ガ所管シテ然ルベキモノダト云フ風ニ實ハ考ヘテ居リマス、サレバコソ米窪サンモ御存ジノヤウニ、高等商船學校ハ會テ遞信省所管デアリマシタノガ文部省ニ移ツタ、唯之ヲ以テ私ハ十分ダト云フコトヲ申ズノデハナイ、寧ロ私共ノ努力ガ洵ニ足りナイコトヲ、實ハ表明シナケレバナラスノデアリマシテ、教育ノ事ニ付キマシテハ文部省ガ全責任ヲ負フノデアリマスガ、斯ウ云フ特殊ノ教育ニ付キマシテハ實際ノ社會ノ狀況ニ合ワヤウナ、或ハ海運界ノ實情ヲ十分ニ頭ニ入レテ、サウシテ眞ニ現場ニ働キマシテ役立ツ者ヲ作ルニ付キマシテ、私ハモツト十分ノ努力ヲシナケレバナラスト云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマス、其ノ點ヲモツト十分ニ

努力致シマスナラバ、國家ノ、或ハ時局ノ要求スル海員ヲ養成ニ對シマシテ、現在ノ商船學校ガ將來ニ於テモ足ラナイト云フコトヲナクスルコトガ出來ルト考ヘテ居ルノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ御存ジノ通り地方ノ中等商船學校ガ、二箇年間ニ互リマシテ七校ガ全部官立ニ移管セラレマシタ、其ノ際ニ關係官廳、即チ文部省、遞信省、海軍省、企畫院、內務省等ノ局長ヲ委員ト致シマス商船教育調査委員會ト云フモノガ出來マシテ、其ノ下ニ尙ホ幹事會ガ設ケラレマシテ、實ハ毎月一回關係官廳ノ課長「クラス」ノ方々ニ御集マリ願ツテ、商船教育ノ各種ノ問題ニ付テ、研究シ、連絡シテ戴イテ居ルノデアリマシテ、此ノ機能ヲ十分ニ活用致シマスレバ、私ハ將來ハ少クトモ米窪サンノ御杞憂ノ點ハナイヤウニ、學校ヲ運營シ得ルノデヤナイカト思ツテ居リマス、尙ホ大臣カラ答辯ヲ御求メデゴザイマスナラバ、私カラ適宜御聯絡致スコトニ致シマス、第二ニ教育ノ内容、或ハ學校制度ニ付キマシテノ御質問デゴザイマスガ、御話ノ通り只今ノ商船學校ノ教育ト申シマスモノハ、一ツノ學校航海科ト機關科ヲ必ズ併設致シテ居リマス、此ノ點ニ付キマシテハ文部當局ニ於キマシテモ、色々ナ意見ヲ持ツテ居ルノデアリマス、會テ商船教育調査委員會ノ幹事會ニ、實ハ此ノ問題モ文部當局カラ審議ノ議題トシテ出シタコトガアリマス、其ノ時ノ關係官廳ノ御意見デハ、實ハ可否色々ゴザイマシテ、機關科ヲ專門トスル商船學校、航海科ヲ專門トスル商船學校ニ分離スベキモノデアルト云フコトニ付キマシテハ、必ズシモサウ云フ風ナ議決ニ實ハ落チナカッタヤウナ譯デアリマス、尙ホ將來モウ少シ研究

シナケレバナラスト云フ風ニナツテ居ツタノデアリマス、御指摘ノ點ハ私共實ハ考慮シテ居ルト云フコトダケ御答ヘ申上ゲマス、ソレカラ教育内容ニ付キマシテ、洵ニ御話ノ通りデアリマシテ、實ハ御存ジノヤウニ中等商船學校、高等商船學校ヲソレノ卒業致シマシタ者ノ將來ノ進路ハ、大體同ジヤウニ行キ得ルト云フコトニナツテ居ルノデアリマスカラ、御質問ノ點ハ恐ラク中等商船學校ノコトヲ主トシテ仰シヤツテ居ラレルノダラウト思ヒマスガ、中等商船學校ニ於キマシテモ各方面ノ相當高イ知識ヲ、極ク薄ツベラニ雖然ト將來ヲ見越シマシテ教ヘルヤウナ傾キガアツタヤウニ、私共聞イテ居ルノデアリマス、是等ノ點ニ付キマシテハモツト將來考究致シマシテ、中等商船學校ニ於テハ、是レダケハ身ニナル、サウシテ勉強ニ依ツテ將來ハ伸び得ル素地ヲ與ヘルト云フ風ニ、重點的ニ教育スベキデアリマイカト私共考ヘテ居ルノデアリマシテ、官立ニナリマシタ機會ニ、ソレ等ノ點ニ付キマシテハ學校長會議等ニ於キマシテ、色々當局ト致シマシテモ、考究致シテ居ルノデアリマス、今申上ゲマシタヤウニ、從來トモソレ等ノ點ニ付キマシテハ實ハ努力ガ足ラナイノデアリマシテ、中等商船學校ガ其ノ移管ニ際シマシテハ、殊ニ刻下ノ時局ノ要求スル所ニ鑑ミマシテ、其ノ點ニ付キマシテハ當局ト致シマシテモ十分留意ヲシテ、學校ヲ指導致シテ居ルヤウナ次第デアリマス

○米窪委員 先程ノ第一ノ點デ關口サント私ノ意見ガ全然一致シナイノハ残念デアリマスガ、改メテ大臣ニ御傳ヘテ願ヒタイ、勿論教育ハ文部省ガ之ヲ綜合サレルノガ文

部省ノ生レタ初メカラノ使命ダラウト思ヒ
マスガ、私ハ商船學校ガ最初遞信省ニ屬シ
テ居ツテ、途中デ、中橋文相ノ時デアツタ
カ、ソレガ文部省ニ移管ヲシタコトガ間違
ツテ居ル、是其ノ時ノ文部大臣其ノ他ノ
文政審議會デアルカ、ソレ等ノ關係ノ機關
ガ間違ツテ居ル、其ノ證據ニハ今日漁業ニ
關スル日本ノ最高學府デアル水産講習所ハ、
依然トシテ農林省ガ管轄シテ居ル、斯ウ
云フ風ニ特殊ノ教育ハ、ヤハリ其ノ特殊ノ
部面ノ行政ヲシテ居ル機關、或ハ行政官廳
ト同一ナ機構ノ下ニ置カナケレバナライ、
此ノ點ダケデモ論ズレバ相當アリマスガ、
時間ガアリマセヌカラ本日ハ致シマセヌガ、
例ヘバ海技免狀ヲ授與スル行政事務トモ聯
關ガ起リ、船員ヲ募集スル行政トモ聯
關ガ起リ、色々ノ點デ起ツテ居ルノデ、是
ハ文部省ガ綺麗ニ潔ク適當ノ時期ニ遞信省
ニ移管サレルノガ適當ダト考ヘマス、此ノ
點ハ米窪ハ斯ウ言ツテ居ルト云フコトヲ、
文部大臣ニ御傳ヘ願ヒタイ、ソレカラ第二
ノ點デ、ソレハ恐ラク中等商船學校ノ問題
ダラウト仰シヤツタガ、是ハ高等商船學校
ニモアル、儼ノ生エタヤウナ教授ヲヤツテ
居ル部門ガアル、ソレデサウ云フコトニ關
聯シテ、モウ一ツ關口サンニ御尋ネシタイ
ガ、最近民間ニ商船大學ヲ設置シロト云フ
意見ト云フカ、運動ガアル、是ハ私ハ極メ
テ譯ノ分ラナイ、時局ニ合ハナイ運動ダト
思フ、彼等ノ運動ノ趣旨ハ、商船大學ヲ作ツ
テ、ソコヲ出タ者ハ商船ニ乗ラズニ社會ノ
各方面ヘ行ツテ働カウト云フノデスカラ、
是ハ私ハ少シ考ヘガ違ツテ居ルト思フノデ
スガ、文部當局ハ此ノ商船大學運動ニ對シ
テドウ云フ御考ヘヲ持ツテ居ラレルカ、其

ノ點ヲ御伺ヒシタイ
○關口政府委員 御質問ノ點ニ先ニ答ヘマ
シテ、後ニ御意見ノ點ニ付キマシテ一、二
御參考ニ申上ゲタイト思ヒマス、商船大學
ヲ設ケベキモノデアルト云フ運動ガゴザイ
マスコトハ、御説ノ通りデアリマス、當局
ト致シマシテハ此ノ問題ハ各方面カラ研究
シナケレバナライト思ツテ居リマシテ、
只今折角檢討中デゴザイマス、唯商船大學
ト申シマシテモ、御存ジノヤウニ、是ハ形
式論デアリマスケレドモ、只今大學ト云フ
名前ヲ設ケマスモノハ、大學令ニ依ル必要
ガアルノデアリマス、商船ニ關スル專門技
術ヲ更ニ高度ニ與ヘル機關ニ對シマシテ、
大學令ニ依ル大學ニナリ得ルカト云フコト
モ、一應ノ問題ニナル、又御説ノ通り果シ
テサウ云フ高度ノ教育ガ必要カドウカト云
フコトニ付キマシテモ、相當考究ヲ要スル
ヤウデアリマス、唯私共ハ只今ノ海員ノ素
養ト致シマシテ、現在ノ高等商船學校ノ程
度ノ教育ダケデ、終局的ニ十分デアルカド
ウカト云フ點ニ付キマシテハ、多少ノ疑問
ヲ持ツテ居リマス、大學ト云フ名前ハ別デ
アリマスガ、高等商船學校ノ上ニ何カモウ
少シ再教育ト申シマスカ、實地ヲ經テ來タ
上デ更ニ磨キヲ掛ケルヤウナ施設ガ、或ハ
必要ナノデハアルマイカト云フコトヲ一應
考ヘマシテ、商船大學ト云フ問題ト關聯致
サセマシテ、色々研究致シテ居ル次第デア
リマス、ソレカラ御話ノ通り、水産講習所
ト申シマスモノハ農林省所管デアリマス、
尙ホ文部省ニハ高等水産學校ト云フ同ジ種
類ノモノガ、學校トシテ存在シテ居リマス、
ソレカラ海員免狀ノ點ニ付キマシテハ、御
説ノ通り遞信省カラ御出シヲ願フ、唯例ヘ

バ高等工業學校ノ卒業生ノ中、電氣科ノ者
ハ遞信省カラ主任技術者ノ免狀ヲ貰ヒ、或
ハ高等農林學校ノ獸醫科ヲ出マシタ者ガ獸
醫ノ免狀ヲ農林省カラ貰フト云フ風ナコト
デアリマシテ、其ノ點ニ付キマシテハ、例
外ト申シマスカ他ノ省カラ免狀ヲ受ケル例
ハナイノデハゴザイマセヌ
○米窪委員 私ノ質問ハ是デ大體打切りマ
スガ、唯最後一點文部省ニ御伺ヒ致シタイ
ノハ、今日練習船ト云フモノガアリマス、
東京高等商船學校ニ大成丸、神戸高等商船
學校ニ進徳丸、地方ノ商船學校ニ海王丸、
日本丸デスカ、此ノ四隻ノ帆船練習船ト稱
スルモノガアツテ、サウシテ約一年間或ハ
ソレ以上、學校ノ生徒ヲ收容シテ所謂慣海
性ヲ養フトカ、或ハ海洋精神ヲ吹込ムトカ、
主トシテサウ云フ精神ノ方面ノ訓練ヲヤ
ツテ居ル、技術ノ方面ハ、是ハ帆船ヲ操
ルノデスカラ、其處ヲ出テ來タカラト云ツ
テ、卒業シテモチツトモ爲ニナラス、ソレ
ハ船内ノ各部ノコトハ分ルコトハ分ルノデ
アリマスガ、汽船ト帆船ト自ラ違フノデア
リマスカラ、技術ノ方面ニ於テ餘リ得ル所
ガナイ、唯海ニ慣レルトカ、海洋精神ヲ體
得スルトカ、サウ云ツタ精神ノ方面ニ於テ
ハ相當修得スルト思フノデスカ、併シ何レ
ニ致シマシテモ一年間ト云フ貴重ナ時間ヲ
アノ帆船デ費スト云フコトハ、此ノ船員ノ
拂底シテ居リ、サウシテ良イ船員ヲ得タイ
ト云フ今日、アレハ何トカ御考慮ヲ願ツテ、
少クトモ帆船生活ヲ半年トカ何トカモウ少
シ短期ニ期間ヲ改正スルト云フ御考ヘガア
ルカドウカト云フコトヲ御尋ネ致シマス
○關口政府委員 只今ノ點ニ付キマシテハ、
先程申シマシタ商船教育調査委員會ノ幹事

會ニ、文部省當局ヨリサウ云フ話題モ提供
致シマシテ、色々研究致シタコトガアルノ
デゴザイマス、唯現在ノ制度ニ於キマシテ
ハ、帆船練習期間ヲ減ラシマシテモ、結局
ニ於テ餘リ變ラヌダラウト云フ結論デ、短
縮スベシト云フコトニハマダ歸着致シテ居
リマセヌノデアリマス
○米窪委員 私ノ質問ハ是デ済ミマシタ
○小林(房)委員長代理 ソレデハ一寸米窪
君ニ御相談ヲ致シマスガ、先程アナタカラ
御要求ニナツテ居リマシタ數字ノ點デアリ
マスガ、ソレニ付イテ政府ノ方カラ秘密會
ノ要求ガアルノデスカ、簡單ナ數字デスカ
ラ、後程個人的ニ政府當局ヨリ御聽キニナ
ツテハ如何デアリマセウカ
○米窪委員 私ハソレデモ結構デアリマス
ガ、外ノ同僚ノ諸君ガサウ云フ數字ハ必要
ナイト仰シヤレバ……
○小林(房)委員長代理 成ベクナラバ簡單
デアリマスカラ、一ツ個人的ニ御聽キ下サ
ツテ、秘密會ヲ開カズニ拂リタイト思フノ
デアリマスガ……
○宇賀委員 ソレハ秘密會ヲ開イテ吾々モ
聽キタイト思ヒマス
○小林(房)委員長代理 ソレデハ秘密會ヲ
開キマス
〔午後零時五十分秘密會ニ入ル〕
〔午後零時十九分秘密會ヲ終ル〕
○小林(房)委員長代理 是カラ公開致シマ
ス、本案ニ對スル質疑ハ終了シマシタ、是デ
休憩致シマス、午後一時ヨリ再會致シマス
午後零時二十分休憩

午後一時十分開議

○平川委員長 午前ニ引續イテ會議ヲ開キマス、郵便貯金法中改正法律案、此ノ質問ハ終了致シマシタ、是ヨリ討論及ビ採決ニ入リマス

○小林(房)委員 本案ニ對シマシテハ、討論ヲ省略シテ直チニ採決セラレンコトヲ望ミマス

○平川委員長 只今ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ「呼ブ者アリ」〕

○平川委員長 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、是ヨリ採決致シマス、本案ニ賛成ノ諸君ノ御起立ヲ願ヒマス

〔總員起立〕

○平川委員長 起立總員、滿場一致可決致シマシタ

○平川委員長 續イテ、船舶保護法案ノ質問ハ是デ終了致シマシタカラ、政府カラ答辯ヲ求メマス

○米窪委員 此ノ法案ニ付テ先程私ノ質問中、逓信大臣ノ御答辯ガ保留ニナツテ居リマスガ、幸ヒ大臣ガ御出席デアリマスカラドウゾ御出席ノ政府委員ノ方カラ御聴キノ上、御答辯ヲ願ヒマス

○平川委員長 委員長ヨリ申上ゲマスガ、米窪君ノ質問ハ、船舶教育ハ逓信省ト文部省ニ分レテ居ツテ非常ニ不便デアル、之ヲ統一スル考ヘハナイカト云フ意味ノ御質問デゴザイマシタ、ソレニ對シマシテ逓信大臣ノ御答辯ヲ願ヒマス

○村田國務大臣 御尤モナ御質問デアリマス、逓信省ト致シマシテハ、之ヲ統一一致シタイト云フ希望ヲ持ツテ居リマシテ、其ノ

希望ノ下ニ今文部省トモ打合セ中デアリマス、左様御諒承ヲ願ヒマス

○米窪委員 逓信大臣ノ御答ヘヲ承リマシテ非常ニ意ヲ強クスル者デアリマスガ、先程文部政府委員ハ、何レ文部大臣ノ之ニ關スル御答辯ハ書類デスガ、取敢ズ自分トシテハココ當分ノ間ハ逓信省ニ移管スル、即チ統一スル意思ハナイト云フ御答ヘデアツタ、此ノ間逓信省ト文部省ノ間ニ意見ノ不一致ガゴザイマスガ、問題ハ船舶保護法ニ關係シテ、ソレニ立脚シテ居ル質問デゴザイマスカラ、海軍當局ハ此ノ兩省ノ意見ノ不一致ニ對シテ、ドウ云フ御意見ヲ持ツテ居ラレルカト云フコトヲ、海軍大臣ハ御出席デアリマセヌカラ、海軍省ノ政府委員カラ海軍大臣ニ御傳ヘノ上、書類ヲ以テ御答ヘヲ願ヒマス

○平川委員長 左様御取計ラヒヲ願ヒマス、ソレデハ船舶保護法案ノ討論及ビ採決ニ入リマス

○小林(房)委員 本案ニ對シマシテハ討論ヲ省略シテ直チニ採決サレンコトヲ望ミマス

○平川委員長 小林君ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ「呼ブ者アリ」〕

○平川委員長 御異議ナイモノト認メマシテ動議ノ如ク決シマシタ、是ヨリ採決致シマス、本案ニ賛成ノ諸君ノ御起立ヲ願ヒマス

〔總員起立〕

○平川委員長 起立總員、滿場一致可決致シマシタ、是ニテ散會致シマス

午後一時十五分散會